

理学院 数学系

東京科学大学



2026 年度

数学系とは

数学は数・図形・函数などを対象として数千年にわたり築かれてきた学問です。数学はそれ自身の発達を遂げると同時に、自然および社会に関する諸科学の基礎を形成してきました。数学系では、このような数学の素養をしっかりと身につけ、社会の各分野で活躍できる人材を育てることを目的とし、現代数学の基本的な知識、および数学的なものの考え方を確実に身につけてもらうことを目標としたカリキュラムを組んでいます。

学習内容の概略

数学系に進むと、まず数学漬けの毎日が待っています。午前中に基礎的な数学に関する講義を受けた後、午後は時間を十分に使って演習を行います。さらに自宅での学習を行うことで、理解をより深いものにします。これを毎日繰り返すことによって、少しずつですが着実に数学の力がついていきます。

数学系科目の一週間の時間割を見てみましょう。(年によって若干の違いはありますが、概ね以下の通りです。)

2年 (第5Q)

曜日	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月		解析学概論第一	解析学概論一 (演習)	解析学概論第一 (演習)	
火		位相空間論第一		位相空間論第一 (演習)	位相空間論第一 (演習)
水		代数学概論第一			
木			代数学概論第一 (演習)	代数学概論第一 (演習)	
金		線形空間論第一			

2年 (第6Q)

曜日	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限
月		解析学概論第二	解析学概論第二 (演習)	解析学概論第二 (演習)
火		位相空間論第二	位相空間論第二 (演習)	位相空間論第二 (演習)
水		線形空間論第二		
木				
金		代数学概論第二	代数学概論第二 (演習)	代数学概論第二 (演習)

2年 (第7Q, 8Q)

曜日	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限
月		解析学概論第三第四	解析学概論第三第四 (演習)	解析学概論第三第四 (演習)
火		位相空間論第三第四	位相空間論第三第四 (演習)	位相空間論第三第四 (演習)
水		応用解析序論第一第二		
木		幾何学概論第一第二		
金		代数学概論第三第四	代数学概論第三第四 (演習)	代数学概論第三第四 (演習)

3年(第9Q)

曜日	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限
月		複素解析第一	複素解析第一	
火		実解析第一	実解析第一	
水		微分方程式概論第一		
木		代数学第一	代数学第一	
金		幾何学第一	幾何学第一	

3年(第11Q)

曜日	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限
月				函数解析
火		幾何学統論	代数学統論	
水		函数解析		
金		幾何学統論	代数学統論	

3年(第10Q)

曜日	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限
月			複素解析第二	複素解析第二
火		実解析第二	実解析第二	微分方程式概論第二
水		代数学第二		
木			代数学第二	
金		幾何学第二	幾何学第二	

3年(第12Q)

曜日	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限
火		複素解析統論	位相幾何学	
水		確率論		
金		複素解析統論	位相幾何学	確率論

二年の時間割は、数学の講義と演習でほとんど埋められていることがわかります。また、三年の前期(=第9Q, 第10Q)の週2回ある授業は講義と演習が一組になっている科目です。数学の基本的な知識や考え方を確実に身につけるためには、ただ講義を聴くだけでは不十分です。じっくりと時間をかけ、心の底から理解したと言えるまで、徹底的に自分の頭で考え抜くことが何よりも大切です。演習はそのために用意されています。三年の前期までは、数学系の学生ならば必ず習得しなければならない数学の基礎を学習します。人によっては、面白さよりも辛さや苦しさを感じることもあるでしょう。しかし、土台となるこの部分が盤石でなければ、その上に何も積み上げることはできません。数学漬けの毎日を過ごすうちに、知識だけではなく、数学的なものの考え方が徐々に身についていきます。本当に面白い数学を味わうためには、こつこつと努力を重ねる他はありません。

ところで、数学系では科目によっては英語のテキストを使う場合があります。また、学年が上がるにつれ、英語の文献を調べる必要も増えていきます。英語には早いうちに慣れておくことを勧めます。

三年の後期(=第11Q, 第12Q)は、講義の内容がより専門的になり、講義数も少なくなります。演習もなくなりますが、研究プロジェクトが行われるので自主的な学習がより重要になります。専門分野を学ぶための準備期間と言えるでしょう。また、そろそろ就職活動が気になり始める人もいるでしょうし、視野を広げようと海外への留学を計画する人もいるでしょう。そういう人は、海外留学プログラムや四大学未来共創連合複合領域コースに参加することもできますし、就職活動に力をそそぐことも可能です。それぞれの興味や目標に従って活動できるよう、数学系では三年の前期までに数学系卒業に必要な単位数をほとんど揃えることができるようなカリキュラムを組んでいます。

四年では、それまでに学習した基礎をふまえて、数学の高度な専門分野にふれる学士特定課題研究(前期=第13Q, 第14Q)、学士特定課題プロジェクト(後期=第15Q, 第16Q)を行います。多くの場合、数人で一冊の専門書を読み、毎週行われるセミナーで発表者が本の内容を自分の言葉で解説します。

以上が数学系での学習内容の概略です。つぎは、数学系の講義内容に簡単に触れましょう。

講義内容

位相空間論第一～第四 数学は、すべて、集合と写像を用いて記述されるべきものです。ここでは、その数学独特の考え方に慣れることを目標とします。はじめは戸惑うことが多いと思いますが、一度慣れると、便利この上ないものですし、何よりも、数学を本格的に学び始めたことを実感できるでしょう。位相、開集合・閉集合、連続、コンパクト、連結などを学びます。

代数学概論第一～第四，代数学第一・第二 数学的対象のもつ演算規則を抽象化・一般化した理論である群論，環論，体論などを学びます。公理から出発してどのような理論が展開されるかという抽象性の高い数学ですが、逆に、予備知識ゼロから出発できる利点もあります。

解析学概論第一・第二 数学全体の確固たる基礎となるよう、一年生で学んだ「微分積分学」を、もういちど、きちんと定式化しなおします。一年生のときの扱いに比べて、だいぶ抽象度が高くなって大変かもしれませんが、数学を学ぶためには避けられません。

解析学概論第三・第四 ベクトル値関数の微積分であるベクトル解析について学習します。線積分，面積分，グリーンの定理，ストークスの定理，ガウスの定理などを学びます。

線形空間論第一・第二 数学全体の確固たる基礎となるよう、一年生で学んだ「線形代数学」を、もういちど、きちんと定式化しなおします。一年生のときの扱いに比べて、だいぶ抽象度が高くなって大変かもしれませんが、数学を学ぶためには避けられません。

幾何学概論第一・第二 ユークリッド空間における曲線と曲面の微分幾何を学習します。図形の局所的な“曲がり具合”を測る曲率の理解を深めることが目標です。基本形式，測地線，ガウス・ボンネの定理などを学びます。

応用解析序論第一・第二 フーリエ解析の基礎であるフーリエ級数論を学習します。周期関数を三角関数や指数関数の無限和として表現するフーリエ級数展開を理解することが目標です。

幾何学第一・第二 曲線や曲面の一般化である多様体の基本事項を学習します。多様体とその接空間を具体例と共に理解することが目標です。部分多様体，はめ込み，埋め込み，ベクトル場などを学びます。

実解析第一・第二 面積や体積の抽象化である測度と、それに基づく積分を理解することが目標です。ルベーグ積分，ルベーグ測度，ルベーグの収束定理，フビニの定理などを学びます。

複素解析第一・第二 複素平面上的複素数値関数の微積分である複素関数論を学習します。正則関数, 有理型関数, コーシーの積分定理, ローラン展開, 留数定理が主な項目です。

微分方程式概論第一・第二 常微分方程式の基礎理論とその応用を学習します。線形常微分方程式の基本解や一般の常微分方程式の解の存在と一意性を, 例と共に理解することが目標です。

以上が3年前期までに開講される講義で, 3年後期開講の「代数学統論」, 「幾何学統論」, 「位相幾何学」, 「函数解析」, 「確率論」, 「複素解析統論」の詳細は省略しますが, 科目間の関連図を掲載しておきます。それぞれの科目がどのように関連しているか一目でわかると思います。科目を相互に結ぶ直線の意味は, 線の下にある科目を学習するには線の上にある科目の内容を理解していることが必要というつもりです。しかし, 「位相空間論」と「代数学概論」のような線で繋がっていない科目同士を無関係だと思っははいけません。数学はあらゆる分野が複雑に関連し合って成り立っています。幾何学をやるにしても, 解析も代数も必要です。3年前期までは図の線の有無にとらわれず, まんべんなく勉強しましょう。

また, 他の大学から先生を招いて, 先端の数学について短期間で解説してもらう集中講義という科目があります。数学の分野は思いのほか広く, ひとつの大学の先生方が網羅する範囲は限られたものです。ですから, 他大学の先生に, その先生の専門分野の活気溢れる最近の話題や最近重要になってきた基本的事項を解説していただくのです。最近では, 次のような先生方に担当して頂きました。

令和7年度: 水野 義紀 (名工大), 齋藤 秀司(東大), 本多 正平(東大),
今野 北斗(東大), 太田 雅人(東京理科大), 坂本 祥太(九大),
篠崎 裕司(一橋大), 中山 季之(周南公立大)

令和6年度: 高木 俊輔 (東大), 本間 泰史 (早大), 高田 了 (東大),
篠崎 裕司 (武蔵野大), 中山 季之 (三菱UFJ銀行融資企画部),
川節 和哉 (熊本大), 野崎 雄太 (横浜国大),
Neal Bez (埼玉大/名古屋大)

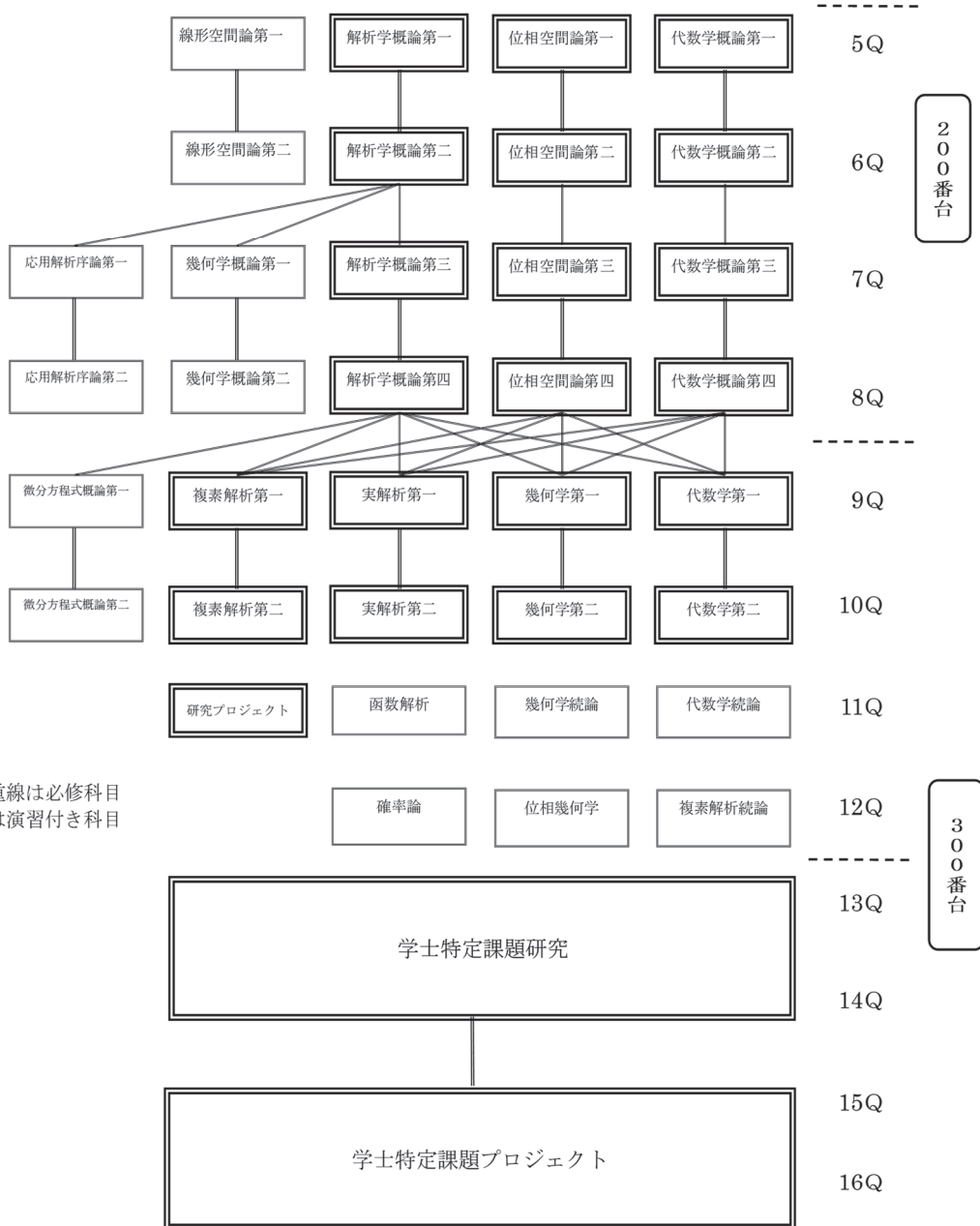
令和5年度: 高津 飛鳥 (東京都立大), 星野 壮登 (大阪大), 小寺 諒介 (千葉大),
作間 誠 (広島大/大阪公立大), 篠崎 裕司 (日本銀行金融研究所),
中山 季之 (三菱UFJ銀行融資企画部), 今井 直毅 (東大),
三竹 大寿 (東大)

令和4年度: 須川 敏幸 (東北大), 星 裕一郎 (京大数理研), 松尾 信一郎 (名大),
深谷 竜司 (みずほ第一フィナンシャルテクノロジー), 水谷 治哉 (阪大),
新田 泰文 (東京理科大)

令和3年度: 篠崎 裕司 (日本銀行), 三枝 洋一 (東大), 久野 雄介 (津田塾大),
石毛 和弘 (東大)

全国各地から, いろいろな先生方がいらして下さったことがわかります。

【数学系科目関連図】



注：二重線は必修科目
または演習付き科目

ここまで、講義科目について説明してきましたが、数学系では、どの講義科目も毎年同じ先生が担当するとは限らないということも付け加えておきましょう。数学系以外の多くの学科では多くの講義の担当の先生が固定されていて毎年変わらないので、この点は、数学系の講義が他学科の講義と著しく異なります。そして、同じ講義科目であっても、担当する先生によって年ごとに違う雰囲気を味わえるのは数学系の面白いところでもあります。

さて、それでは、数学系にはどのような先生方がいらっしゃるのかをみなさんに知っていただくために、それぞれの先生方に、ご自身の研究について簡単に説明していただきますよう。

教員紹介

遠藤 久顕 教授 位相幾何学(トポロジー)、特に4次元多様体と曲面の写像類群に興味をもちています。Lefschetz ファイバー空間とよばれる幾何学的対象を考えることにより、4次元多様体の微分構造と写像類群の組合せ的な情報とが結びつきます。同相だが微分同相でない多様体、すなわちエキゾチックな4次元多様体を、組合せ的な情報だけで完全に記述することが遥か遠い目標です。

大矢 浩徳 准教授 様々な代数系(群や環など)のベクトル空間への作用を研究する表現論という分野が主な専門です。特にリー群やリー環と関係する代数系の表現論に関心があります。最近、型の異なる複数の量子ループ代数の有限次元表現圏の間に見られる不思議な類似性をより良く理解するための研究を行っています。また、表現論を用いて記述される幾何学的対象の研究も並行して行っています。

落合理 教授 専門分野は整数論や数論幾何学で、最近特にガロワ表現、志村多様体、Euler系、混標数の可換環論、 p 進モジュラー形式、 p 進 Hodge 理論を扱っています。整数論は歴史が長いので先人が解けずに残された予想や問題は難しいものばかりです。それでも研究を続けると、ささやかでも自分なりの新しい視点や一段深い理解が得られる時があり、そういう時には深い喜びを感じます。幾何、代数、解析の多くの理論が絡むので勉強するのも大変ですが、その多面性ゆえに各人の個性や興味に応じた何かを見つけられる懐の広い分野だと思います。

小野寺 有紹 准教授 偏微分方程式の解の形状や挙動に対し、その数学的原理・構造の解明を目標に研究しています。最近は大変問題の解構造や楕円型作用素のスペクトル構造と領域の形状の関係に興味をもちています。

カールマン タマシュ 准教授 専門領域は、低次元トポロジーと組み合わせ論です。特に、結び目とグラフ理論に興味があります。これまでの研究では、ハイパーグラフの新しい不変量を導入し、それに交代絡み目のジョーンズ型不変量と三次元多様体のフレアーホモロジーとの関係があることを示しました。現在はこの離散数学的な理論を拡張しています。主な目標は上記の位相幾何学的な定理を任意の絡み目に一般化することです。

隠居 良行 教授 専門は偏微分方程式論です。Navier-Stokes 方程式をはじめとする、流体運動を記述する非線形偏微分方程式系の数学解析を行っています。実解析、複素解析、関数解析などを用いて、方程式のどのような構造が解のどのような性質に反映されているのかを研究しています。最近では圧縮粘性流体の運動を記述する方程式系について、解の安定性や分岐現象を研究しています。

河井 真吾 助教 複素数体上で定義された代数曲線上の射影接続とよばれる特別な形の微分方程式のモジュライ空間の研究を行っています。現在はとくに、結節点をもつような退化した代数曲線上の射影接続を定義し、それによって上記のモジュライ空間の部分コンパクト化として、代数曲線のモジュライ空間の安定コンパクト化の上で定義されたアフライン束を構成することに関心があります。

川内 毅 助教 代数多様体の特異点におけるその上の直線束の振る舞いとその特異点の特異点解消における例外集合との間の関係やそれらの特徴づける不変量について関心があります。また特異点の近傍での位相的な性質や特異点解消手続きによる位相的な変形にも興味があります。

五味 清紀 教授 専門は代数トポロジーで、物理学と関わるようなテーマを中心に研究をしています。最近では特に、代数トポロジーにおいて一般コホモロジー理論のひとつと位置付けられる位相的 K 理論を研究して、物性物理学におけるトポロジカル絶縁体・超伝導体の分類への応用などを行っています。また、マグニチュードおよびマグニチュードホモロジーといった距離空間の不変量の研究にも取り組んでいます。

下元 数馬 教授 体を必ずしも含まない巨大な可換環が主要な研究テーマです。このような対象はパーフェクトイド空間論の基盤となりますが、その扱いは Banach 環やホモトピー論的な発想が不可欠であり、伝統的なネーター環論の枠組みを超えています。一方でその背後には整数論的な対象や、代数多様体の特異点論といった具体的な数学があるという認識を持ちつつ研究を行っています。

鈴木 正俊 教授 素数などの数論的対象を解析的手法で研究する解析数論を専門にしてい

ます. 特に, ゼータ関数と呼ばれる一群の特殊関数の解析的挙動 (解析接続, 関数等式, 極や零点の分布など) を, 複素関数論, 関数解析, 微分方程式論, 確率論などを用いて捉える研究を行っています.

染川 睦郎 講師 数体上の滑らかな射影代数多様体に対し, L 関数と言う複素関数や p 進解析的な p 進 L 関数が定まります. 代数多様体として円分体や有理数体上の楕円曲線などをとるとき, L 関数や p 進 L 関数の整数点での値を, 代数多様体のコホモロジーから導かれる量で記述する研究を行っています. 更に, このため必要とされるコホモロジー論の研究もを行っています.

田口 雄一郎 教授 代数体や函数体のガロア表現は数論的对象 (アーベル多様体, 保型形式, モチーフ, ...) に伴って現れ, もとの対象の性質をよく反映してゐます. ここ数年はそれらのモジュライ空間や有限性を研究してゐます. さらに最近はクムマー忠実体など, 遠アーベル幾何学で重要な役割を果たす体の数論を研究してゐます.

田辺 正晴 講師 コンパクトな複素多様体間の正則写像の数の有限性について, 数の上界を代数不変量, 位相不変量にのみ依存する形で与える研究を行っています. また, コンパクトな複素多様体について, 自己同型写像の固定点, 及び多様体間の正則写像の一致点に関する研究を行っています.

辻 寛 助教 専門は幾何解析で, 特に解析的に記述される関数不等式を用いて凸幾何学にかかわる問題を調べる研究をしています. また, 関数不等式はそれ自身興味深いものが多く, 問題の背後に隠れている現象を読み解くための重要な研究対象となります.

利根川 吉廣 教授 幾何学的または物理的な背景をもつ問題を, 非線形偏微分方程式と幾何学的測度論の手法を用いて研究しています. この数年は特に時間発展する幾何学的な問題の代表ともいえる平均曲率流の幾何解析を行っています. 平均曲率流は純粋な極小曲面などの幾何学的問題のみならず, 流体と曲面が相互作用する問題や, 高分子の相分離問題, 一般相対性理論など幅広い分野に関係していて興味は尽きません.

内藤 聡 教授 アフィン量子群の有限次元表現の圏は, 有限次元単純リー環に付随する量子群の有限次元表現の圏とは異なり, 半単純ではありません. つまり, 必ずしも既約表現の直和には分解しません. 私は, この圏の構造を, 主に柏原-Lusztig の結晶基底の手法を用いて研究しています. 特に, この圏のグロタンディーク群の基底を成す標準加群 (の特殊化) の結晶基底のルート系やワイル群を用いた実現を, 主要な道具として研究を行っています.

直江 央寛 助教 私の専門は低次元トポロジーです。特に、シャドウと呼ばれる 4 次元多様体に埋め込まれた 2 次元多面体を用い、4 次元多様体の分類や特徴付けを行っています。シャドウは曲面結び目のような 2 次元的な対象の埋め込みを捉えつつ 4 次元多様体を組み合わせ的に表示することができ、その応用を模索しています。また、4 次元多様体のトライセクションにも興味があり、研究を行っています。

二宮 祥一 教授 確率微分方程式の研究をしています。確率微分方程式はいわゆる数理ファイナンスの理論に於いて本質的なものであり、ニュートン以来の解析学のように現在の文明を支える道具としての側面も持ちます。この分野は発展の最中であり、応用の現場から数学の課題が次々と生まれるという幸福な状態にあります。私は確率微分方程式で記述される拡散過程の弱近似問題に特に興味を持ち、色々な分野の道具を使ってこれに挑んでいます。

野坂 武史 准教授 位相幾何学とくに 3 次元多様体を研究しています。基本群や(コ)ホモロジー理論を主に用い、多様体の代数的なアプローチを様々な方向性から模索しています。代数トポロジーや群コホモロジーを得意とし、トポロジーの幅広い研究手法を目指しています。

服部 俊昭 准教授 半単純リー群に対応する対称空間を離散部分群で割って得られる商空間の幾何を、対称空間の無限遠境界へのその離散群の作用との関係から調べています。最近ではリー群の離散部分群だけでなく、これらと関係の深いコクセター群やアルティン群についても関心があり、何かできることがないか試行錯誤中です。

藤川 英華 准教授 一変数関数論の中の一分野であるタイヒミュラー空間論（リーマン面の変形空間）の研究を行っています。特に無限型リーマン面を扱っています。タイヒミュラーモジュラー群の無限次元タイヒミュラー空間への作用の力学系の考察を通して、無限型リーマン面のモジュライ空間の構造にも興味があります。双曲幾何学、擬等角写像論、クライン群論、複素力学系とも密接に関連しています。

星野 壮登 准教授 確率偏微分方程式と呼ばれる、確率的な項を含む偏微分方程式を研究しています。このような方程式は、統計力学や量子力学など、ミクロな世界の物理学と深く関係しています。近年は特に、繰り込みという特別な操作が必要となる方程式が注目を集めています。私は方程式の繰り込み可能性を決定付ける条件や、繰り込みの背景にある数学的構造に興味をもち、確率論、実解析学、代数学など様々な手法を組み合わせた研究を行っています。

本多 宣博 教授 複素数を使った幾何学（複素幾何学といいます）の研究を行っています。具体的には、ツイスター空間と呼ばれる、複素 3 次元の空間の幾何学を調べています。ツイスター空間は数理物理で自然に現れる偏微分方程式（自己双対方程式）の解と密接な関係があり、複素幾何学で研究される典型的な空間とはかなり違った性質を持っているのが面白いところです。また自己双対方程式そのものの解の構成にも興味をもっています。

馬 昭平 准教授 代数曲線や K3 曲面といった代数多様体のモジュライ空間の大域構造を調べています。代数群の作用を解析して有理性を証明するアプローチと、保型形式を利用して一般型を証明するアプローチの両面作戦を採っています。

三浦 英之 教授 関数解析やフーリエ解析等の手法を用いて偏微分方程式を研究しています。特に非圧縮性流体を記述する方程式や拡散現象を記述する方程式の解の滑らかさや特異点近傍での漸近挙動を、様々な不等式や分解を用いて定量的に評価することで調べています。

皆川 龍博 助教 極小モデル理論で現れる代数多様体の変形（スムージング、ケーラー錐の変形、倉西空間）、収縮写像の変形、代数多様体とその因子の組の変形に興味を持っています。特に 3 次元、4 次元で小平次元が 0 以下の多様体（Fano 多様体、Calabi-Yau 多様体など）を扱っています。

谷田川 友里 准教授 スキームや代数多様体から局所的に得られる離散付値体は、古くからの数論の中心的な対象である代数体とは異なり、一般にはその付値環が完全でない体を剰余体に持ちます。このような付値環の剰余体が完全とは限らない離散付値体に対して、分岐の不変量やその性質などについて研究しています。特に、スキームや代数多様体から得られる大域的な情報と局所的に得られる分岐の情報との関係性を調べることに興味を持っています。

吉川 翔 助教 正標数及び混標数の代数幾何学の研究をしています。正標数の代数幾何学とは、1 を何度か足していくと 0 になるような異様な世界における幾何学で、興味深い現象を多く観察できます。また、通常の幾何学への応用も数多く知られており、そのために混標数の代数幾何学が必要となります。

これまで、数学系の概要や講義内容、先生たちの研究内容などについて紹介してきましたが、ひとくちに数学といっても、その意味するものは余りにも広範でかつ深いものです。したがって、数学って何だろう、数学ってどこが面白いのだろう、数学者ってどんなことを考

えているのだろう、何を研究しているのだろうといった素朴な質問に、簡単明瞭に答えることはなかなかできません。そこで、そのような疑問を解決する助けになるような文献を紹介したいと思います。

図書案内

まず、もっとも取っ付き易いものとして、日本評論社から出版されている月刊誌「数学セミナー」があります。現代数学の様々な分野を初心者にもわかりやすく解説してある特集や、数学の第一線で活躍している各分野の研究者たちの見方・考え方が紹介されています。



この雑誌は生協の書籍コーナーに毎月並んでいますので、気が向いたときに眺めてください。ただし、この雑誌は号によってかなり雰囲気が変わりますので、眺める機会ごとに違う印象を受けるかもしれません。また同じ号であっても、記事によってそのレベルはかなり異なりますので、難しそうな記事は避け、分かりやすいものだけを拾って読んでも良いでしょう。学生時代に「数学セミナー」を拾い読みしていたが「一冊を完全に理解した」ということは一度もないという数学者も沢山います。でもそれで良いのだと思います。第一線の研究者が紹介している数学の世界の雰囲気とキーワードが分かれば良いのです。

また、サイエンス社から出版されている「数理科学」という雑誌にも、しばしば数学関連の特集記事が組まれています。数学と物理にまたがる話題が特集されることもあります。この雑誌も生協の書籍コーナーに毎月並んでいます。こちらはちょっと程度が高いです。「数学セミナー」を大学一・二年生を主な読者層と想定している雑誌だとしたら、「数理科学」は大学四年生から大学院生を主な読者層と想定している雑誌といたところでしょうか。

つぎは単行本です。まずは、新入生向けのガイド本を3冊あげましょう。

- 数学セミナー編集部（編）『完全数学ガイダンス hyper』日本評論社、
- 佐藤 文広『数学ビギナーズマニュアル』日本評論社、
- 和久井 道久『大学数学ベーシックトレーニング』日本評論社。

『数学ビギナーズマニュアル』では、講義であらたまって教わる機会はほとんど無いけれども、大学で数学を勉強していく際にぜひ知っておきたいことがいろいろ解説されていますし、『大学数学ベーシックトレーニング』では、大学で学ぶ際の心構えから、集合・論理・実数などの基本概念、現代数学特有の論証の仕方などが丁寧に解説されています。

大学における数学の内容は今までより高度になり、授業を聴いたりテストを受けるだけでなく、高度な専門書を時間をかけて深く読み込んだり、セミナーで発表するような勉強

に取り組むこととなります。そのような勉強にどう向き合っていくかについては次の 2 冊を挙げておきましょう。

- 小平 邦彦 (編)『新・数学の学び方』岩波書店,
- 伊原 康隆『志学数学』 シュプリンガー数学クラブ.

『新・数学の学び方』においては、13 人の著名な数学者が数学の勉強の仕方について様々な切り口でのエッセーを提供しています。『志学数学』でも具体的なエピソードを交えながら勉強の仕方や学問との向き合い方に関する多くの示唆を与えてくれます。

そして、次は最先端の話題に触れることのできる読み物として

- サイモン・シン (青木薫訳)『フェルマーの最終定理』新潮文庫,
- 高木 貞治『近世数学史談』岩波文庫,

を挙げておきます。20 世紀終わり頃の華々しい話題の一つとしてフェルマー予想の解決がありますが、『フェルマーの最終定理』は、その解決に至る過程をドラマ仕立てに書いた本です。『近世数学史談』は 19 世紀の数学の華、楕円関数についての詳しい読み物で、これを読んで数学者になった人も多いです。でも、難しいので、すぐに読めなくても落胆しないことです。また、これらの他に

- 野海 正俊『オイラーに学ぶ—「無限解析序説」への誘い』日本評論社,
- 久賀 道郎『ガロアの夢』日本評論社,
- 長野 正『曲面の数学』培風館,

を挙げておきましょう。

さて、ここで、全学科目の「線形代数学」および「微分積分学」を受講する際の参考書を少々挙げましょう。

- 佐武 一郎『線型代数学』裳華房。
線形代数を本格的に学ぶための定番で、内容が充実しており解説も明快です。
- 堀田 良之『加群十話』朝倉書店。
読み物風ですが、線形代数の発展をみるには良い本です。最初、ちょっと辛抱すれば、一年生でも読むことができます。
- 田島 一郎『解析入門』岩波全書。
 ε - δ 論法の丁寧な解説には定評があります。講義でいくら丁寧に説明しようとしても時間不足は否めませんので、各自、このような本で補うことは大事です。
- 高木 貞治『解析概論』岩波書店。
微積分学の古典的教科書で、昔は、理工系の学生なら皆持っていました。しかし、初学者には難しく、教科書レベルを卒業してから読むと有難味に分かるという本です。何度読んでも新たな発見があり、一生携えるに適した本のひとつです。

最後に、英語の文献を調べなくてはならなくなったときのために

- 蟹江 幸博(編)『数学用語英和辞典』近代科学社

を挙げておきます。

紙と鉛筆とコーヒーをお供に、ああでもないこうでもないとな納得がいくまで考えながら自分のペースで本を読み進めていけることが数学の大きな魅力です。図書館や数学系図書室、大学生協の数学書コーナーには、気楽に読める啓蒙書から本格的な数学書までさまざまな書籍が取りそろえられていますので是非一度足を運んでみて下さい。

これで数学系案内もそろそろ終わりです。最後に、参考資料として、数学系卒業生の進路一覧を挙げておきます。これを見ると、卒業生が様々な分野で活躍していることが分かることと思います。数学系への進学を考えている人には、大いに参考になるでしょう。なお、数学系および数学コースの web-page が

<https://www.math.titech.ac.jp/index.html>

にありますので、そちらも御覧ください。それではまたの機会に。

卒業生の進路

令和7年度

学部卒業生 32名

- ・大学院進学 24名：東京科学大学（数学16），東大（数理7），学芸大1
- ・就職等 8名：(株)日本M&Aセンター1，アイテック阪急阪神(株)1，
(株)グルコース1，サレジオ学院中学校高等学校1，その他4

修士修了者 26名

- ・博士課程進学 11名：東京科学大学(数学10)，東大(数理1)
- ・就職等 15名：厚生労働省1，(株)三井住友銀行1，日本生命保険相互会社2，
明治安田生命保険相互会社1，ソニー生命保険(株)1，
日鉄ソリューションズ(株)1，数研出版(株)1，インタープリズム(株)1，
中央大学附属横浜中学校・高等学校1，その他5名

博士課程修了者 8名

- ・就職等：学振特別研究員2，研究員2，ソニー(株)1，(株)infinitemloop1，
(株)エクサウィザーズ1，昭和学院高等学校1

令和6年度

学部卒業生 27名

- ・大学院進学 17名：東京科学大学（数学9），東大（数理6），京大（数理研1），
東北大1
- ・就職等 10名：日本生命（相）1，ソニー生命(株)1，アクセンチュア(株)1，
うすい学園1

修士修了者 14名

- ・博士課程進学 4名（編集時点での進学希望者）
- ・就職等 10名：(株)みずほ銀行1，あいおいニッセイ同和損害保険(株)1，KPMG あず
さ監査法人1，(株)東京出版1，(株)図研1，NTT データウィーブ(株)
1，インタープリズム(株)1，(株)ゼネテック1，その他2

博士修了者 4名

- ・就職等：学振PD1

令和5年度

学部卒業生 34名

- ・大学院進学 22名：東工大(数学18；他3)，東大(数理1)

- ・就職等 7名：太陽生命保険(株)1, 三井住友海上火災保険(株)1,
(株)テックドクター1, (株)ディー・エヌ・エー1, その他3

修士修了者 20名

- ・博士課程進学 9名
- ・就職等 9名：三菱UFJ銀行1, あいおい損害保険(株)1, あいおいニッセイ同和損害保険(株)1, 第一生命保険(株)1, (株)ワールドインテック1, (有)ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所1, デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー(同)1, その他2

博士修了者 7名

- ・就職等 7名：国立大学法人教員2, 群馬工業高等専門学校(研究職)1,
ブレインズテクノロジー(株)1, その他3

令和4年度

学部卒業生 32名

- ・大学院進学 21名：東工大(数学13; 他3), 東大(数理3), 京大(数理研1),
名古屋大1
- ・就職等 4名：三井住友銀行2, 明治安田生命1, エス・アイ(株)1

修士修了者 22名

- ・博士課程進学 8名
- ・就職等 8名：三井住友銀行1, 三菱UFJ銀行1, みずほ証券1, 数研出版(株)1,
ジブラルタル生命1, アーティス(株)1, iCAD(株)1, その他6

博士修了者 3名

- ・就職等 3名：日本入試センター(株)1, NTTデータ先端技術(株)1,
NTT基礎数学研究センター(RA採用)1

令和3年度

学部卒業生 30名

- ・大学院進学 18名：東工大(数学13; 他2), 東大(数理1), 京大1, 神戸大1
- ・就職等 8名：ブレイン・ゲート1, 日本アルゴリズム1, ワールドインテック1,
PwCコンサルティング1, カルチャーコンビニエンスクラブ1,
日本生命(相)1, その他2

修士修了者 23名

- ・博士課程進学 8名
- ・就職等 15名：テス・エンジニアリング1, ピクシブ1, PwCコンサルティング1,
フォーカスシステムズ1, 伊藤忠テクノソリューションズ1,
みずほ証券1, 明治安田生命保険1, その他8

博士修了者 3名

- ・就職等 3名：PD 1, その他 2

令和2年度

学部卒業生 33名

- ・大学院進学 22名：東工大(数学1 3; 他4), 東大(数理3)
- ・就職等 4名：ソニー生命 1, 日鉄ソリューションズ 1,
アリストゴラ・アドバイザーズ 1,
EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング 1

修士修了者 19名

- ・博士課程進学 2名
- ・就職等 14名：損害保険料率算出機構 1, 日本生命 1, みずほ証券 1,
明治安田生命保険 1, 三井住友銀行 1, 鉄道総合技術研究所 1,
三菱 UFJ 銀行 1, 全国労働者共済生活協同組合連合会 1, ナガセ 1,
サンネット 1, インターネットイニシアティブ 1, 海上自衛隊 1,
PwC あらた有限責任監査法人 1, 中学校・高等学校教員 1

博士修了者 6名

- ・就職等 6名：学振特別研究員 1, その他 5

平成31年度（令和元年）

学部卒業生 26名

- ・大学院進学 15名：東工大(数学11), 東大(数理4)
- ・就職等 11名：日本経済新聞社 1, プルデンシャル生命保険 1, SEG 1,
Fujiyamall 1, その他 7

修士修了者 27名

- ・博士課程進学 8名
- ・就職等 20名：NTT 研究所 1, ソニー1, トーア再保険 1, 富士ソフト 1,
ビップシステムズ 1, Simplex 1, ARISE analytics 1, VSN 1,
コナミアミューズメント 1, 高校教員 2, 塾講師 1, その他 8

博士修了者 1名

- ・就職等 1名：高等学校教員 1

表紙の人物

ニュートン	オイラー	フーリエ
ガウス	コワレフスカヤ	リーマン
ワイル	ヒルベルト	小平邦彦

2026年4月発行

編集 東京科学大学 理学院 数学系

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1

<https://www.math.titech.ac.jp/index.html>